

# 令和元年度 学校評価書

令和2年3月31日  
 学校法人山名学園 山名幼稚園長 諸井理恵  
 山名幼稚園学校評価委員会

- 幼稚園の教育目標
  - 元気な子 … ①戸外でなかよく遊ぶ子 ②正しい生活習慣を身につける子
  - やさしい子 … ①情緒豊かで思いやりのある子 ②自分や友達を大切に使う子
  - 考える子 … ①物事に興味をもち考えたり工夫したりする子 ②最後までやりとげる子
  - ありがとうのいえる子 … ①感謝の気持ちを持てる子 ②ものをたいせつにする子
- 本年度の重点課題 「明るいあいさつのある環境」「がんばる力を引き出す環境」「思いやりの生まれる環境」「祈りと感謝のある環境」心の成長のための環境の充実を目指す。  
 幼稚園教育において育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」について取り組む。

### 3. 評価項目に対する自己評価及び学校評価

項目	評価点	自己評価結果	評価点	学校評価結果	
項目別評価	幼児の姿	A	年長児は、言葉がけも、1から10まで言わなくとも、少ない言葉で気づく力が育っており、自分たちの力で問題解決しようとする自主性が育っていると感じる。 自分の事だけでなく、周りにも目を向け必要な言葉をかけあえる子どもが育ってきている。物事に正面から向き合い素直に一生懸命に、楽しく取り組む姿勢が育っている。	A	園の教育目標に即した元気な子供たちが育っていると感じる。あいさつのできる素直な子が多いと感じる。落ち着いた生活ができている様子がうかがえる。
	幼児への対応	B	伝えることが苦手な子どもにどのように心を開いてもらうか模索中。いろいろなチャレンジできる子どもたちが中心になりがちだが、苦手なことが多い子どもたちに自信や達成感味わってもらうために、職員が初めの一步を踏み出せるような安心感のある導き方の工夫が必要と感じる。新しいことにも好奇心をもって素直に向き合えることができるようになった子どもたちに、次のステップへ自信を持たせてスムーズに移行できるよう促したい。	A	子どもたちががんばる力を引き出そうと日々先生も努力している様子をを感じる。多様な子どもたちに個々に向き合うことは大変なことと思うが、誠実に向き合っている様子が伝わる。
	保護者への対応	B	保護者とのコミュニケーションにスピード感が必要と感じる。保護者の疑問に早いうちに気付き、正しく伝えられるコミュニケーションのあり方を工夫したい。保護者の不安を察して、お便りなどで具体的に伝える努力を心がけたい。園と家庭で子どもたちを育てる上で、保護者の方に、どこまで園の活動のお手伝いをお願いするべきか迷うこともあった。これまでの反省をもとに、双方が成長し合えるかわり方を模索したい。	A	多様な要望がある中、前向きに善処している。価値観や方向性の違いに苦慮する大変な時代でもあるが、辛抱強く向き合っていると感じる。
	教育内容環境	A	テーマをもとに、子どもの声を拾い、子どもの考えを反映させる活動を進めていくことを積極的に取り組んだ。今後も子ども個人の考えを尊重し、子どもの達成感や自信につながることを実現に導く指導ができるよう、次年度も展開していきたい。預かり保育の環境では、ネット活用でより円滑な予約システムを取り入れ、人員を増やすなど幼稚園の福祉的機能についても積極的に考え、多様な子育ての状況に対応する努力もした。	A	広い園庭と清潔な園舎に安心感がある。幼児期に、習慣として身につけるべき点をおさえている。防災教育などにも熱心で、親子ともに学びの機会がある。
	アンケートからの気づき	A	昨年同様、園の活動には、おおむね理解と評価はなされている。職員の思いが保護者に伝わっていないと感じることもあったが、職員が信じて決めた方向性を進めることで時間をかけて理解に至ってもらうことも必要と感じる。教育講演会の要望が高く、保護者の学びの場が今後もより求められていくと思われる。今後ますます、教育格差が進むことが懸念される中、これからの変革の時代に対応した学びの提案も園で取り組みたい。	A	園全体の評価は高く保護者からの感謝の言葉が多い。子どもの成長の心配や子どもたち同士のトラブルにも園と親との話し合いに努力している様子がうかがえる。
本年度の総合評価		数々の行事も、保護者の協力をいただき、安全にかつ円滑に行うことができた。子どもの成長をよくとらえている保護者の多いことに、子育てにしっかりと向き合っている家庭の様子がうかがえる。園と家庭の両輪で、子どもたちの学びと成長を今後も応援していける環境が比較的整っている方だと感じる。園としては、より良い保育のために思ったことをお互いにフラットな関係性の中で出し合える職員間の日々の交流が大切と感じる。これまで以上に、助け合いと感謝の言葉がめぐる職員間の関係性を作っていきたい。	総合評価	季節に合わせた活動と、鼓笛活動、運動会、おゆうぎ会、年長児のおぢばがえりなど子どもたちが成長できる行事を続けている。地域からも信頼されている園だと感じる。新しい方向性も模索中のようなのだが、実現に向けて取り組んでもらいたい。	
今後の課題取り組みの考察		教育要領の理解を深め、教育活動に展開していくために更なる研究をし、研修会や職員間の話し合いの時間を確保することを課題とした昨年度であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の今、次年度の課題として教材研究や子どもたちとの交流をどのように進めていくか研究が急がれるとき。試行錯誤で、気づいたことを実行し、トライ&エラーを繰り返し問題解決に臨むよう、失敗を恐れずに職員一丸となって進めていきたい。これまでの伝統に縛られすぎず、これからの時代必要とされていく生きる力につながる学びの要素を積極的に取り入れていくべきと感じる。	総合所見	幼児教育無償化になり、様々なことが懸念された1年であったと思う。子どもたちの成長につながることを試行錯誤して保育の質の向上に努めることを期待したい。	

※評価点の表示方法 A・・・十分達成されている B・・・達成されている C・・・取り組んでいるが成果が十分でない D・・・取り組みが不十分である